

残席わずか

金融担当SEが知っておきたい金融のIT基盤の勘所(基礎編) 【オンラインライブ】

(4124261)

本セミナーでは、金融を担当するSEが、知っておきたいシステムとその前提となる銀行/信託/証券/保険/投資顧問の基礎IT知識について学びます。業務知識のみの研修ではなく、ITに特化した内容となります。

開催日時	2024年11月29日(金) 9:00-16:00ライブ配信
カテゴリー	IS導入(構築)・IS保守 専門スキル
DXリテラシー	What(DXで活用されるデータ・技術): デジタル技術
講師	石橋正彦氏 (サイバー研究所 所長) 日本ユニシス(現BIPROGY)では中央銀行/都市銀行/信託銀行においてSWIFT決済に従事。ペリ ングポイント(現PwC)/ガートナーにてリスク管理を担当。フィナンシャルシステムプラン以降、 勘定系のネットバンキング業務に従事。JUASでは研究会に12年在籍し、講師を7年に渡り実施。
参加費	JUAS会員/ITC: 35,200円 一般: 45,100円(1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信(指定会場はありません)
対象	◆対象: 金融機関を担当するSE、システム企画担当者 証券業務として、銀行/信託/ 証券を横断的に担当するSE ◆職務: 開発/保守/運用、リスクマネジメント ◆レベル: シス テムエンジニア初級 初級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

ライブ配信(Zoomミーティング) 【セミナーのオンライン受講について】

■テキスト

開催7日前を目途に発送(お申込時に送付先の入力をお願いします)

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になることがあります。ご了承ください。

■開催日までの課題事項

特になし

金融機関の銀行/信託/証券/保険/投資顧問のシステムは、専門用語が多く、業務から派生しているITの業界用語や、昔からのITの運用/制約/データベースの持ち方/テスト方法/リカバリ方法が異なります。

本セミナーでは、金融を担当するSE(システム・エンジニア)の方が、

知っておきたいシステムとその前提となる銀行/信託/証券/保険/投資顧問の基礎IT知識について学びます(業務知識のみの研修ではなく、ITに特化した内容となります)

また共通基盤として、金融ならではの外接(決済)/中央銀行/取引所など、業界人として知って起きたい接続システムを紹介します。この分野は、歴史が長く、障害や事故なども知識として必要となってくるので、過去からのシステムの変遷についても理解を深めます。

◆主な研修内容:

第1部 はじめに

- 金融ITシステムはどのように分類できるか
- 都市銀行のシステム変遷

(第1次オンライン、2次、3次、ポスト3次オン、Unix/Windowsオン)

・都銀システムの冗長化構成の変遷（世田谷ケーブル火災事件）

- ・事務センター運用や2拠点運用の考え方（災害対策）
 - ・近年のネットバンキング/ポイント制度
 - ・（例題）給与振込のセンターカット、通帳印刷の歴史
- 預為などの負荷テスト（ランニングテスト）方法

第2部 信託銀行で知っておきたいITシステム知識

- ・信託銀行ならではの業務と歴史（特金/ファンドトラスト）
- ・SWIFTネットワークやカストディ業務
- ・証券代行/（照合センター）ほふり/（現物管理/受渡の変遷）
- ・全銀システム/日銀ネットとは
- ・先物/オプションの委託業務
- ・（例題）外接系の変遷（海外との外接系の変遷）

全銀システムの障害

第3部 証券/保険で知っておきたいITシステム知識

- ・証券取引所の変遷
 - ・証券会社の変遷
 - ・商品/投資勘定
 - ・（例題）デットロックなど排他制御の変遷、東証の障害
-
- ・生命/損害保険のITシステム
 - ・コールセンターと事務封入業務
 - ・従来の保険商品の窓口販売や訪問販売のビジネス・モデルとは
 - ・昨今のネット通販ビジネスとコールセンター/TVのCMでの営業活動とは
 - ・コールセンターならではの音声システムとインバンドの基礎知識
 - ・（例題）コールセンターと共に構築するセキュリティ対策

第4部 金融ITシステムのリスクとIT監査

- ・物理セキュリティ、入退出、ゾーニングの業際での違い
- ・ディザスタ・リカバリ（DR）構築の変遷（Active-Active）
- ・コムフィッシュや磁気テープなど、データを長期保存するテクノロジー
- ・CSIRTなど/金融ISACなど外部からの指導
- （例題）近年のAWSやAZureなどを利用する際の規程類

事業継続計画（BCP）などの実装と規程類の変遷

第5部 今後の運用

- ・アセンブラ/COBOLなどの言語の利用と、開発現場/ライブラリ管理
- ・委託先に委託すべきか、受託かアウトソースか
- ・昨今のシステムに関するニーズ/内製化